



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和4年6月30日

入試小論文の書き方 ～ 図書館実務担当者研究協議会講演から

6月7日、本校を会場に十勝管内学校図書館実務担当者研究協議会が行われました。これは十勝管内の図書館担当者、図書館顧問の先生方のスキルアップ講座として年一回開催されるもので、コロナ禍の影響で3年ぶりに一堂に会しての開催となりました。講師の先生は札幌在住の文章アドバイザー、藤本研一先生。多くの学生や社会人に小論文指導を行い、有名大学への合格者を多数輩出する、文章指導のカリスマです。今回は『入試小論文指導を有効に行う7つの技術』という演題で教員向けのワークショップをしていただきましたが、小論文の書き方についてのヒントが満載でしたので、この機会に生徒の皆さんにも少しだけ紹介したいと思います。

まず「出題意図を探る」こと。なぜ小論文を出題するのか。そして大前提として「採点者の気持ちになる」ことが大事だということ。採点者は2～3名のことが多く、その採点方法も評価点の平均をとったり、真ん中の評価をとったり様々。そこから言えることは採点者が安心して点数をつけられる答案を書くのがベターだということ。ですから、極論を言わないことです。その意味では採点者が確信をもって×をつけられるのは誤字・脱字、文法的なミスや文字数です。加点を狙うよりも減点を減らすことです。地味に大事なことは読んでもらいやすいように濃い文字（2B以上）で書くこと。あらゆる小論文は「自己PR」であることを忘れてはなりません。小論文ではよく「論理的に書く」ことが大事と言われます。論理的とは主張と根拠をセットで書くことです。その根拠も8割の人が納得するようなものでなければなりません。論理をはっきりとさせ文章の型にはめて書いていくとよいのです。型はいくつかあります。「結論-具体的説明-結論」「結論-理由（なぜなら）-例示（たとえば）-結論（このように）」「問題提起-意見提示（確かに…しかし）-展開（そもそも）-結論（したがって）」です。（）で示した言葉にしたがって書きやすいと思います。そして、読みやすいように書くことも大事です。用語の統一や、一文あるいは一つの段落で言いたいことは一つにしておくことも読みやすさには大事なことです。文を長くせず、書き終わったら必ず見直しをすることが大事です。あと1秒の努力を忘れずに！



小論文の力をつける2つの「新」

ズバリ、**新聞**と**新書**。日頃から最新の情報に触れ、自分の考えを持つことが大事。新聞の中で自分の進路に関わる部分をノートに貼って、自分の考えを加えるようにしていくとよい。新書は新書大賞というものが毎年発表されるのでそこから選んで読んでいくとよいことでした。今年度の大賞作品は次のとおり。

----- 【2022新書大賞】 -----

◎大賞『サラ金の歴史』小島庸平著（中公新書）

◎第2位『生物はなぜ死ぬのか』小林武彦著

（講談社現代新書）

◎第3位『莊園』伊藤俊一著（中公新書）

◎第4位『デジタル・ファシズム』堤 未果著

（NHK出版新書）

◎第5位『ゲンロン戦記』東 浩紀著（中公新書ラクレ）

女子ハンドボール部全道優勝

6月18～20日に行われた高体連ハンドボール大会で女子が優勝、インターハイの切符を手に入れました。

女子の決勝の相手は、昨年度新人戦決勝で延長の末敗れた札幌新陽高校が相手。堅い守備から速攻を繰り出し、最後まで足を止めることなく戦い、23-14で見事優勝。全員高校入学後に競技を始めたチームが4年ぶり3度目の頂点に輝きました。



中勝毎日新聞社提供

いざ全国の舞台へ！

放送局NHK杯総合優勝

6月16～19日にNHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会が行われ、見事総合優勝を果たしました。総合優勝は2015年以来、二度目です。各部門でもテレビドキュメント部門での優勝をはじめ素晴らしい成績を収めました。

◆テレビドキュメント：優勝（3-1 鈴木さん）

◆朗読：準優勝（2-3 小川さん） 5位（3-2 堀井さん）

◆ラジオドラマ：4位

（1-2 石澤さん、越智さん、1-5 池田さん）

◆ラジオドキュメント：5位（3-2 堀井さん、2-5 近藤さん）

◆TVドラマ：6位（1-1 田中さん、1-4 松崎さん）

これらの入賞者及び作品は7月に東京のオリンピックセンター及びNHKホールで行われる全国大会に出場します。

第22回 探究推進部長 西川 翔太 教諭

ちょっとした一歩から世界は変わる

◆ひょんなことから放送局に

小学校で柔道を、中学校では吹奏楽をしていました。高校入学後、柔道部の説明を聞いていたところに放送局の先輩がやってきて、放送室に連れて行かれたのが入局のきっかけでした。先輩たちの仲がとてよく楽しそうだったので入部することにしました。正直なところ放送って何をやる場所なのかわからなかったです。少しわかるようになったら引退という感じです（笑）。

私の学年は人数が多くなかったので何でもやりました。最後の大会はラジオ番組で全道大会進出を狙いました。アナウンス部門にも出ることにしていたのですが、自分が作った原稿が面白くないと顧問からダメ出しされて、朗読部門に回ることになりました。結果は本命のラジオ番組部門は地区大会で敗退。「ああ、青春が終わった」と思いました。ところが、朗読部門でまさかの1位。なんと全道でも入賞（12位）してギリギリ全国大会出場！こんなこともあるのです。今でも、大会プログラムに自分の名前が掲載されているのを見ると誇らしく思います。

◆部活動は探究そのもの

放送局一筋の高校生活は、今振り返っても良いことしかありません。番組を作るために取材に走り回りますが、普通に暮らしていたら絶対に出会わない人に会えるのです。そういう人々から刺激をいただき、そこから疑問に思うことやもっと知りたいことに一歩踏み込む。それを繰り返していき、ふと気がつく全く違う風景にたどり着いているのです。そういう意味では放送に限らず、部活動って探究活動そのものだと思うのです。でも、どちらかというと今の子どもたち

はすぐ答えをほしがりますし、その一方で自分の世界に入り込みがちです。やってみたことがないことでちょっと踏み込んでみたり、すぐ諦めるのではなくちょっと続けてみる。そこから世界は変わっていくと思うのです。

◆新たな出会いを作ってあげたい

私ははじめてから教員を目指したわけではありません。北大水産学部に進学したので、考えてみれば当たり前なのですが、何を学ぶにしても海に関連していきます。海のしぼりがなければと思ったこともあります。少し息苦しさもあった自分の研究は、赤血球を増殖させる薬（成分）を海の生物から発見しようとするものでしたが、なかなかうまくいきませんでした。研究に行き詰まっていたところに、友人から頼まれて物理の家庭教師を引き受けました。するとその生徒は教育実習で教えた生徒でした。そんな縁もあって、教えることの楽しさに目覚め、教員もいいなと思うようになり、今日に至っています。私も教員として生徒たちに新たな出会いをつくってあげられたらいいなと思っています。先ほどちょっと否定的なことを言った水産学部も、裏をかえせば、海に関係するのならテーマは何でもありです。製薬あり、食品あり、造船だってあり。物化生地のジャンルにしばられず、多様な分野の研究ができます。興味があったら聞きに来てください。



インタビュー

きらり

高校生活最後の三条祭に向け準備を進める

三条高校生徒会執行部 3年次生のみなさん



三条祭の準備が本格化してきました。そこで今回はその成功目指して尽力している生徒会3年次生に意気込みを聞いてみました。

◆3-1小島里穂さん（副会長・チーム旗）いつも執行部に協力していただきありがとうございます。チーム旗は新体に掲示します。ぜひ足を運んでください！

◆3-4関菜々海さん（副会長・チームパフォーマンス）盛り上がるよう3年中心にがんばっています。他クラスの応援もよろしくお願いします！

◆3-6遠藤理子さん（風紀委員会・文化祭）文化部や有志の発表を楽しんでもらえるよう頑張ります。みんなで盛り上げてください。

◆3-6藤沼美空さん（風紀委員会・クラフト）行事を楽しんでくれて

いる皆さんの笑顔やお礼を言ってくれるのがとても嬉しいです。三条クラフトは全てが素晴らしい作品ですのでぜひ見てください。

◆3-5林美沙希さん（体育委員会・チーム対抗戦）今年初めて大縄を行います。臨機応変に対応して頑張ります。

◆3-6林航太さん（バザー）今年からインディアンを入れました。ぜひカレーを食べてほしい～！！

◆3-3三木颯斗さん（アーチ）なんとかアーチを成功させたいです。デザイン案の段階ですぐいものがあるから注目してください。

◆3-4渡辺結大さん（回収実行委員）家に帰るまでが遠足というように、片付けるまでが学祭です。ゴミの回収までしっかり気を抜かずに行っていきたいです。みんなそれぞれベストを尽くして最高のものをつくりあげましょう！

◆3-6橋本結南さん（装飾委員会）玄関前に飾る横断幕と階段アートで文化祭の雰囲気を作れたらなと思っています。

◆3-5松井彩月さん（会長・催し委員会）みなさんに楽しんでもらえるよう、たくさん試行錯誤してきたので思いっきり楽しんでください。テーマのように一人一人が輝いて青春の1ページを描いてほしいと思います。でも、くれぐれもケガはしないように！（笑）

◇一同 みんなで楽しんで最高の思い出をつくりましょう！！

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。